

テーマ

ふるさとの食の魅力や価値に気づき、これからの生活に活かし、未来を展望する

事業実施地区（中学校区名）	飯南町立頓原中学校区
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	志々公民館・頓原公民館

テーマの背景

- 1 全国的に家庭の食卓の危機が叫ばれる現代、「食」は生命維持、人づくりに欠かせない要件である。子どもたちに地域の食文化や家庭の味をしっかりと伝えていくことは、未来の地域づくりにつながる礎の一つである。高齢者から保護者世代へ、保護者世代から子どもたちへ「つなぐ」を継続的に実践していくことが必要である。
- 2 親子一緒に調理をする機会が少ない中、飯南町の食材と地域の名人を活用し、「食のふるさと教育」を進め次世代に地産地消の重要性や技術をつなぐことが必要である。

実際の取組

④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：家庭の味まつり

<取組の概要>

(目的)人間が生きていく上で一番大切な食を通し、「楽しい家庭の食卓」づくりを進めるとともに地域の食文化や地域の人の力を次世代に伝える。

(対象)子どもを含む地域住民

(実施場所)さつき会館(志々公民館)

(具体的な内容)人を育てることを主題にした講演会並び他家の味を楽しみ手本にする交流会



竹下和男氏講演会



家庭の味まつり

<成果と課題>

開催当初は、中学校区の大人であったが、校区外からの参加や親の参加に子どもたちがついてくるようになり、近年は、子どもたちが一参加者として出品し、交流をし自分の作品の説明をしたり、他の出品者から調理方法や材料について聞いたり、楽しむという状況である。課題は、まだ、参加したことのない親世代を開拓し、子どもたちの参加や出品の機会を作り、食を通したふるさと教育(ひと・もの・こと)の充実とふるさとの食文化の伝承に努めたい。

④ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：ふるさとの食材で料理にチャレンジ

<取組の概要>

(目的)親と子が地域の特産品である食材を知り使うことによって、ふるさとの味を家庭や地域に広げるとともに、食を通してより地域を愛しふるさとに誇りを持ち、親子の絆を深める。

(対象)親子

(実施場所)交流センターとんぼら

(具体的な内容)地域講師が、それぞれの料理について作り方を指導した後、子どもを中心に調理し、親は子どもたちを見守りながら手伝い、ふるさとの食材(舞茸、おから、野菜、猪肉等)を使った料理を完成させ、参加者全員で楽しく会食・意見交換を行った。



ふるさと食材を使った親子料理教室

<成果と課題>

会食後に実施したアンケートでは、子どもと一緒に料理をする機会がないという親も多く、子どもたちが公民館等で培ってきた力に驚くという状況もあった。また、飯南町ならではの食材を使った食育は、子どもも大人も学びになるという意見も多々あった。

このことを踏まえ、今後も地域住民を巻き込む仕掛け作りと親と子が共に学ぶ機会の提供も必要であると思う。

また、アンケートから、飯南町の食材をもっと活用したいという意見もあり親世代への学習の機会を検討したいと考える。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

これまで、志々公民館「わらべの学校」や頓原公民館「とんぼら探検隊」活動を通して、料理教室や通学合宿の食事作りをしてきており、子どもたちの力がついてきていると考えている。しかし、親子で一緒に料理を作ることは家庭に任せてきた。今後、公民館でも親子で料理をする機会を増やすことによって、「親に食についての重要性を認識してもらおう」「家庭の中で親も子どもに食の大切さや子どもにもできる役割を理解させる」など、同時に親世代へのふるさと教育が必要であると考えている。また、地域の教育力(ひと・もの・こと)を活用し、地域住民をしっかりと巻き込む仕掛け作りを推進したいと考える。

今後の展望

食をテーマとしたふるさと教育は、家庭教育支援や地域づくりに大変重要なことと考える。今後も子どもたちの要望や、親世代、地域の皆さんの力を事業に取り入れ、この二つの事業を充実させていきたいと考える。そのためにも、家庭、学校、地域が連携し次世代の人材育成に取り組んでいきたい。